



### < 掲載にあたって >

以下は、第 6 回医療保育学会(2002 年 6 月 22 日 ~ 23 日)のワークショップでの口演の発表原稿および質疑記録です。スライドは一部を添付しました。今回の分析対象は抄録であり、正確を期するために論文そのものを対象とする検討を進めているところです。その意味で、発表原稿に示したデータは参考としてください。(2002 年 7 月谷川)

### < 発表原稿 >

#### 医療領域における行動介入技法の諸概念-サイコロジカル・プリパレーション概念を中心に-

西南女学院大学

中京女子大学

谷川弘治

夏路瑞穂

サイコロジカルプリパレーションの概念の行動介入技法における位置づけを検討することを目的として、Psychological Abstracts のタイトルに“psychological preparation”が含まれる文献を検索、リスト化し、そのサマリーを検討した。

検索の結果、83 件の文献を抽出できた。サマリーから判断できる範囲で、研究の分野を年代別に整理し、医療分野の文献は、研究スタイル、ターゲットとなる医療事象、介入対象、用いられた技法・アプローチを整理した。

Slide1 研究分野を整理したところ、医療分野は 56 件、全体の 67%を占めていた。

Slide2 年代別の文献数の推移に関して、医療分野は 1980 年代から 90 年代前半に 8 割近くが集中していた。

Slide3 以下のスライドは、医療分野の文献に限って整理した。研究スタイルについては、それまでの研究を俯瞰する総説・メタ分析的研究と、実験的ないし事例的研究に 2 分された。

Slide4 患者・家族に重大な影響を与える医療事象として、80 年代までは手術を取り上げる文献が多かった。また、内視鏡、心臓カテーテル、腰椎穿刺等の検査場面等を取り上げる文献が増加傾向にあった。

Slide5 介入対象は、小児と成人がほぼ同数であった。

Slide6 スライドに、医療分野のサイコロジカルプリパレーションの技法・アプローチの一般的分類を示した。Information Provision は、検査や処置の手順、その時患者が体験する感覚、患者がとるべき行動など、情報提供すること

をいう。Modeling は、ビデオ・スライド等によって同じ処置や検査を受けている患者を観察し、追体験を促す技法である。Coping Skills Training は、ストレス状態に対する対処スキルのトレーニングを行うことである。

Table 医療分野におけるPsychological Preparation技法

- Information Provision
  - a. Procedural Information
  - b. Sensory Information
  - c. Behavioral Information
- Modeling
- Coping Skills Training
  - a. Distraction
  - b. Selective attention
  - c. Relaxation
  - d. Use of positive self-statement, etc.

Whelan, T.A., Kirkby R. J., Advantages for Children and their Families of Psychological Preparation for Hospitalization and Surgery, Journal of Family Studies, 4(1), 1998, 35-51

Slide7 以上の分類に基づいて実験的研究で用いられていた技法・アプローチを、90年以降の文献について集計したところ、対処スキルのトレーニングにあたる、リラクゼーション、催眠療法を取り上げるものが多かった。なお、Emotional Support 情緒的サポートは比較群として用いられる技法である。

以上から医療分野におけるサイコロジカルプリペレーションは、手術や検査等、患者に重大な影響を与えると予測される医療事象に対して、心理的構え、態度、対処スキルをあらかじめ形成、獲得することをねらった、諸技法の総称として、しだいに定着していったと考えられる。

Slide8 さて、Gaynardらによる、医療事象に対する子どもの対処方略を示した。

膝に座る、手をつなぐといった形で安心の基地を与える、注意を別のものに向ける、泣きたいときは泣いてもかまわないと自然に振る舞うことを認める、呼吸法や想像力を利用してリラックスするなど、多様である。医療事象を体験する前に、これらの対処方略をどのように利用するか、患者とよく話し合い、訓練を行う。

(補足的発言)「ここにお集まりの方々も、子ども達から、検査や処置のとき、このようなことをしているというお話を聞かれされたり、実際に子ども達のために手をつないでいてあげたり、子ども達と検査や処置のときにどうしているといったことを話し合ったりされたことはありませんか？」

Slide9 対処スキルの事前のトレーニングに対して、金澤は、その対処がうまくいかなかったときには自己統制感を減ずる可能性があり、実際の対処過程を通じての支援が重要であると指摘している。スライドには Gaynardらは、「対処行動促進」の基本過程として、子どもとの話し合い、リハーサルに、実際の場面でのサポートを加えており、金沢の指摘をも念頭に置いたプログラムであると考えられる。

事前の対処スキルの訓練が効果的か否かについて検討する十分な資料は、現段階で十分に収集できていない。また、医療事象の体験中の介入も、つぎの医療事象のための介入ともなるため、厳密な区別は困難である。そのため、サイコロジカルプリペレーションと他のストレスマネジメント技法との境界線は、不明確になりがちである。

Slide10 境界線の不明確さはいろいろな介入技法との関連でとり上げることができる。

写真は、報告者が骨髄移植患者に対し移植部屋にて行った、あそびによる介入の一場面である。

Slide11 本児は化学療法の反応として獲得し始めた歩行をしなくなったために、発達指導を化学療法中に開始した。本児と母親と移植チームの一体感を強め、結果として移植中のストレス軽減にもつながった。しかし、報告者はこれらをサイコロジカルプリペレーションとはみなしていない。ところが、こうしたあそび活動による介入全体をサイコロジカルプリペレーションに加える見解もあるようである。

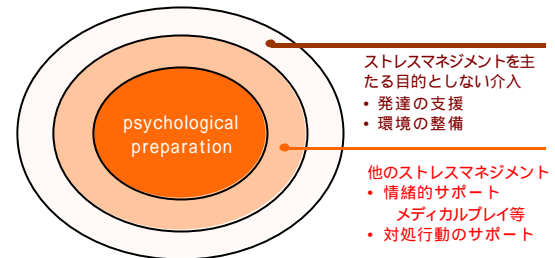
Slide12 結果として医療事象に対する心理的な構えを形成し、ストレス軽減につながる介入には、感情表出の場を提供することによる情緒的サポート、インフォームドコンセントがあげられる。このように重なり合う部分があるため、混乱を防ぐには、各概念のコアを明確にすることが重要である。

Slide13 スライドは、旭川医大看護学科の松浦和代氏にご提供いただいたものであるが、二匹の「ブタさん」の人形を使い、

Slide14 子ども達に、元気なブタさんには心臓の手術の痕があることを発見させ、それによって手術のオリエンテーションを開始する。

Slide15 こうした形で、患者 家族にとって重大なストレス状態をもたらすことが予測される医療事象を、できるだけ事前に共有することが、サイコロジカルプリパレーションのコアとなると考えられる。

Slide16 以上をふまえ、ストレスマネジメントの構造を、三層構造として示した。スマネジメントにおいて通常区別される情緒的サポートや直接の対処行動のサポートとサイコロジカルプリパレーションの違いは、サイコロジカルプリパレーションが差し迫る重大なストレス状態を、できるかぎり体験前に医療スタッフと共有し、対処能力を高めることに重点が置かれるところに見いだすことができる。



Slide17 結語

医療分野の Psychological preparation は、患者 家族にとって重大なストレス状態をもたらすと予測できる医療事象を、できるかぎりその体験前に共有することから始まるストレスマネジメントの一技法と考えられる。

患者の対処行動への介入は、事前のトレーニングを有効とする議論と、疑問とする議論がある。こうした議論を含め Psychological preparation の諸技法の有効性については、引き続き慎重な検討を要する。

#### < 質疑要約 >

下記の質疑要約は、論点をはずさないようにしたつもりですが、誤りがあるかもしれません。その点をご容赦ください。

Q1 サイコロジカルプリパレーションの効果測定尺度にはどのようなものがあるか

A1 入院期間のような外的基準の尺度、生理学的な尺度（心拍数のような）、その他、多様な心理学的尺度が使用されている。

Q2 サイコロジカルプリパレーションは、クリティカルパスの一部と考えるがどうか

A2 クリティカルパスは、医療管理のための手段という側面と患者との情報共有という側面がある。後者においてクリティカルパスはサイコロジカルプリパレーションの出発点にはなるとしても、サイコロジカルプリパレーションすべてがそれに含まれるものとは考えない。

Q2-2 クリティカルパスは、医療行為全体の進行を患者と共有すること。サイコロジカルプリパレーションは主体的に医療をうけてもらうためのものだから、クリティカルパスの一部だと考える。

Q3 プレイルームで遊んでいる途中で検査に行くというとき、「帰ってきたらまたあそぼう」というのもサイコロジカルプリパレーションととらえられると思うが？

A3 (その部分だけ取り出して)サイコロジカルプリパレーションとは言わないように思われるが、(その部分を含めた計画的な「注意のそらし」の働きかけを)サイコロジカルプリパレーションに入れるという見解はあると思う。

参加者からは、日頃の子ども達の関わりとして以下のようなことが出されました。

「検査から帰ってきたら、しっかり受け止めてあげるようにしている」

「プリパレーション人形を入手したが、その人形を自分のものにしてあそびたいという部分が大事で、それを使って説明するということに入りすぎてはいけないように感じている」

「お医者さんごっこでは、子ども達の、体験としての痛みやつらさがよくわかる。そのことを大事にしたい。なかには、検査についてきてほしいという子がいて、その子の注意をそらす話しかけをしたり、手を握ってあげたりしていた」

「あそびの途中で検査に行く子がいると、みんなで『がんばってきて』という声援がおきるようになった。ところが、一度誰も声をかけないときがあり、その時の子どもが、大変しょんぼりして帰ってきた。『みんなが応援してくれなかったからがんばれなかった』と。子ども達には大変な支えだったのだと反省した」

「初めてマルクを受ける子に、経験のある子がいろいろ教えていた。だけど、泣いてしまったようで、その泣き声に『私悪いことをいったかな。私のときは痛くなかった』と、話してくれた」

「検査技師さんや栄養士さん達と子ども達が接しているか疑問に思うようになった。それで、検査技師のおっちゃんたちと、野球をしたり、給食室を訪問したりするようにした。そうすると、子ども達は、検査に納得できるようにもなった」